

平成30年度の目玉研究等 野菜研究所

◆ナガイモ新系統の現地適応性評価と品種登録

【背景】

- ・本県のナガイモは産出額が127億円(H27年)と本県野菜の1/6を占める基幹品目となっています。
- ・ナガイモは輸出額が最も多い野菜品目であり、輸出用には1,200g程度の大型かつAB品の高品質のナガイモが求められています。
- ・野菜研で育成中の新系統「園試系23号」は、県内主力の「園試系6」や「庄司系」より肥大性が優れることから、輸出向けのナガイモとして適すると考えられますが、平いもがやや発生しやすい傾向があります。
- ・これまでの現地試験では、「園試系6」と同等以上の肥大性を示した産地もある一方で、試験地によっては肥大が劣ったり、平いもが多発する事例もみられました。

【目的】

- ・平いもの発生要因を栽培管理面から解析します。
- ・現地試験を通じて県内における栽培適地を明らかにします。

【H30目標】

- ・県内5ヶ所で現地試験を実施し、「園試系6」と比較・評価し、適地を明らかにします。また、従来品種との特性の違いを明らかにし、品種登録出願につなげます。

【今後】

- ・平いもの発生要因を明らかにし、「園試系23号」の高品質安定生産技術に繋げていきます。



図1 いもの形状(園試系23号(左)と園試系6(右))

お問い合わせ

野菜研究所 品種開発部(Tel.0176-53-7419)

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

地方独立行政法人 青森県産業技術センター

